



## 園芸作物栽培に関する

### これからの対策

# Q & A

#### ◎春先の気象と農作業

今冬も前年に引き続き雪は少なく冷え込みもあまりなく過ぎていますが、気象庁の長期予報ではシベリア高気圧は強勢で、一方日本の東海上では例年より気圧が低くなっていることから2月中旬下旬は気温が低下すると見えています。しかし、3月に入ると日射は日一日と強くなって春らしくなってくると思います。3月中旬から4月上旬の晴天の夜は放射冷却で強い降雪が見られますので注意が必要です。降雪予報が出たら夕方にはバオバオなどのベタ掛けを行うとおきましょう。

#### ◎当面の作業

**◎越冬野菜の管理**  
越冬野菜は強い霜による被害が出やすい時期です。特にソラマメは凍害で葉が黒変し生育不良や枯死に至りますので降雪が予想される夜は不織布(バオバオなど)で覆い保護してやることも、土寄せをして株元の保護を図りましょう。

圃場が耕せる状況となったら追肥を打ち、株間を軽く起こしましょう。

タマネギ、ニンニク、イチゴは寒さには強いですが多湿環境に弱いので、排水溝の掘り直しと合わせてマルチ剤やオーソサイド水和剤など殺菌剤を散布しておきましょう。

圃場に雪がないため地温の上昇は例

年より早くなりそうなのでタマネギ、ニンニク、ソラマメ、イチゴ、エンドウなどに追肥を行いましょう。暖冬傾向で前年同様タマネギのトウ立ちも懸念されますが基本的にこれを止める手段はありません。なお肥料切れや排水不良で生育が停滞するトウ立ちには水やりに多くなりやすいので留意してください。

#### 越冬野菜の追肥

越冬作物は冬の間に体力を消耗していますので晴天の日中を見計らって、速効性の「そさい3号」か「そさい5号」または「野菜の達人」などを施用します。1回目は2月末から3月上旬に1a当たり3~4kg、2回目は3月中頃に3~4kg、3回目は4月上旬~中旬4~5kg程度施用します。それ以降は生育状況を見て判断します。マルチ栽培の場合は露地栽培に比べて肥料の流亡が少ないので、追肥は総量で上記の半分位をマルチ上からパウ撒きしておけば、降雨とともに浸み込みます。

#### ◎圃場づくりのポイント

家庭菜園での春夏野菜の植え付けは4月末からとなりますので、土づくりは3月中旬から始まります。土づくりとして堆肥を土壌混和しておきますが定植まで1ヶ月以上必要となります。特にマルチ栽培の場合、未熟有機物から発生するガスで生育が阻害される場合がありますので、早めに施用しておきます。また、ジャガイモには使われない方が無難です。この時期はまだ地温が低いのでホカシや油粕、有機質肥料などは肥効の発現がかなり遅くなるので化学肥料と併用することを勧めます。

#### ◎土壌酸度(pH)矯正

土壌pHが適切でない土壌中に養分があっても野菜は利用がしづらく生育不良の原因ともなります。雨水は酸性に偏っており土壌中の石灰分も水に溶けて流しやすいため、露地の畑では毎年石灰を撒いて土壌pHを矯正しておかなければなりません。なお、ジャガイモ、スイカ、コマツナ、サツマイモなどは弱酸性土壌でも育ちますし、逆にホウレンソウ、エンドウ、レタス、ソラマメ、メロン、タマネギ、アスパラガスなどは中性を好むので石灰はやや多めの施用となります。

#### ◎野菜と連作障害

今月は作付計画を考える期間です。圃場に余裕があれば同じ野菜の連作は避けた方が賢明ですが、特にマメ類やナス科野菜、サトイモは連作によって生育不良となりやすいので連作とならないよう考慮すべきです。キウリなどウリ科やハクサイなどアブラナ科、タマネギなどユリ科野菜は土壌由来の病害が発生しにくいければ連作も可能です。なお、障害が出やすい野菜であっても接ぎ木してある苗は連作障害にも強くなっています。

#### ◎ジャガイモの植え付け

雪が少なかったので植え付けも早まるかもしれませんが遅霜に遭遇する危険性も高くなるので植え付けは例年通りの月下旬から行いましょう。それ以上早く植えたい方はマルチやベタ掛け、小トンネルなど保温対策を講じましょう。圃場準備は土壌排水性を考慮した畝立てと、2回の土寄せに必要な土量を得られる条間をよっていただく。

#### ◎種芋の準備

自家の芋を使い続ける品質・収量が落ちてきます。毎年ではおなじみ芋は更新しましょう。自家のイモは萌芽が早いので植え付け時に伸びすぎている芽は抜き取りついでに植え替えます。

#### ◎適地

水はけが良い砂壤土~壤土(粘質土でない土)で日当たり風通しの良いところが好ましい。また、ジャガイモはもちろんなす、アスパラ、ピーマンなど連作にならないよう気を付けましょう。

#### ◎芋の切断

植付け1週間前くらいまでに1片が50g程度となるよう切断しておきましょう。このときジャガイモの芽が均等になるよう切り分けましょう。

#### ◎施肥

石灰は他の作物の1/3くらいとこ、肥料は窒素よりリン酸、加里の高い肥料を選びましょう。未熟堆肥や鶏糞は使わないほうが肌ざわりに仕上がります。

#### ◎畝立ち

畝幅は70~80cmとします。通路を入れれば90~100cmとなります。マルチ栽培は土寄せ作業がないので、はじめに充分(25~30g程度)畝を上げておきましょう。

#### ◎植付け

植付けはお彼岸以降にしましょう。早く植えつくと4月に入って遅霜の被害を受けて生育が遅れます。植付けは株間25~30cmを基準としましょう。

#### ◎土寄せ

土寄せは除草と除莖を兼ねて2回します。追肥もこのとき行います。特に1回目は遅霜対策も兼ねますので、早めにしっかりと行ってください。

#### ◎ハウス管理

3月はハウス内外の温度差が最も大きくなる時期です。晴天日には外気温が5℃程度でも閉め切ったハウス内では40℃を超えることもしばしばです。



霜害を受けたジャガイモ



畝間が狭く十分な土寄せが出来る。もう少し広く取りましょう。



排水が悪いので畝はしっかり上げましょう。

#### ☆園芸相談Q&A

Q: 肥料は「そさい3号」「そさい5号」のどちらがジャガイモに使えますか?  
A: 「そさい3号」は窒素の割合が多いので必ず「そさい5号」の「強い酸力」を「あつ」の「3割ほど混ぜ込む」で施用します。「そさい5号」は生育をみて追肥で使います。

Q: イモを切断したが、切り口に腐敗がなるとはどういうことか?  
A: イモは植え付けの1週間前までに切断し、何もつけずに切り口を乾かしておきます。切断後すぐ植えたい場合にはセル力や苦土石灰などをつけましょう。

Q: 毎年、イモにあはたができてしまうのはどうしてか?  
A: あはたは「アハタ」病の病徴です。主な原因は①連作。②鶏糞や未熟堆肥の多用。③石灰のやり過ぎ。④自家種の使用などです。予防剤としてはネビジン粉剤やフロンサイド粉剤、オラクル粉剤を土壌混和しておきます。

Q: 肥料を株間にしかみて置いとけばいいの?  
A: 肥料は土壌混和するのが基本です。株間に硫酸や尿素の置き肥が見られますがお勧めできない方法ではありません。

Q: 種芋を切った中に空洞になっているのは大丈夫か?  
A: 空洞部分に変色が見られないイモは使えます。茶色や灰黒色に変色している場合は使わないほうが無難です。

Q: 土質が粘質であるが、何を入れたらよいか?  
A: 基本的には砂土の客土を行うことです。土壌排水性が悪いほどしっかりと畝を立ち上げてください。

Q: 昨年のジャガイモから芽が伸びているがこれを種イモとして使用できるか?  
A: 使用可能です。伸びすぎた芽はすべて掻き落として使用します。ただし自家のイモは購入種芋に比べ収量、品質は劣ります。



大門 優  
園芸アドバイザー  
お問合せ先  
東部ふれあいセンター内営農課  
TEL.51-8004  
TEL.070-1296-1499

バックナンバーはJAたんなんホームページ  
<http://ja.tannan.com/> 広報誌をご覧ください。